

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—今とこれから—

NO. 86



先日、ドクターNにあんずに来ていただきました。予定の時間より遅れて到着。午前中の小児科外来が大混雑で終わらなかったそうです。5月以降、マスコミには大きく取り上げられてはいませんが、子ども達の体調不良が広がっています。ドクターいわく、3年間のコロナ感染予防の影響で、自然にさらされていなかった子ども達には、いろいろな細菌やウイルスを跳ねのける力がついておらず、一気に押し寄せているのだと。不自然を強いられ、それが人を守っていたのですから仕方ありませんが、自然に生きていくって、強くなれるんだと改めて思います。

さて、この時期、就学や進学を控え、年長さんの保護者の方々や、6年生、中学3年生の保護者や本人は、次の場所選びの見学や体験に、気忙しくなっています。まだ少しイメージが湧きにくい時期ですから、まずは情報収集ですね。あんずで過ごしてきたみなさんです。見るポイントは細かく正確だと思います。でもね、もうひとつ押さえておいてほしいポイントがあるんです。

それは、見えている事実ではなく、見えない少し先の未来についてのスタンスです。未来ですから漠然としていてかまわない。「どんな生活をしてほしいか」といった今の時点での願いや夢みたいなものです。ちょっとシビアな話題かもしれませんが、これからやってくる節目節目で、ここに立ち返ると、おのずとその子らしい、そのファミリーらしい選択ができると思います。

もう少し具体的に…そうですね、『合わせてもらうこと』と『合わせていく』ことのバランスを考えていくことだと思います。まだ小さく、これから“好きな人”“好きな遊び”“好きな場所”を見つけていく時期は、まわりがその子に『合わせてもらうこと』から始めていきます。「いいなあ」と思うことをたくさん作って、いろいろな出会いを楽しく経験してほしいですから。そして幼稚園保育所のような大きな集団での生活経験から、子ども社会を知っていきます。少しずつ、まわりに『合わせていくこと』を学んでいきます。“いつでも”“どこでも”“誰とでも”を目指して。

そして学校に通い出すと、どの学校を選んでも、それなりに世界が広がっていきます。その子に『合わせてもらう』場面もありつつ、まわりに『合わせていく』場面が少しずつ増えていきます。『合わせていくこと』を楽しめるようになってくると、その分世界は広がっていきます。向き合える人が増え、出掛けられる場所が増え、選ぶことが楽しくなってきます。その過程の中で少しずつ、親や支援者ではなく、本人が自分で考え選べるようになってほしいなと思います。

一本橋を渡るのに、小さい子より大きくなった子（大人）のほうが怖がるんですよ。なぜって、目線が高いでしょ。いろいろ見えてしまうから、高さを感じてしまうからドキドキ感が増すんです。そこで尻込みしちゃうのか、スリルを楽しむ挑戦をするのか、回り道をして避けるのか、別の道を選ぶのか。小さい頃から練習していれば、選択の迷いは小さいと思います。

この先過ごす場を決めていくのに、年長さんや6年生、中学3年生といえども、まだ少し時間があります。まだ自由に頭の中で考える余裕はあります。これまでの歩みを確かめ、無理のない選択の中で、どんな育ちを願っていくのか、一緒に考えていきましょう！（R5.7）K

